

事務局からのお知らせ

そらべあスマイルプロジェクト

そらべあ発電所寄贈先
(2011年6月30日現在 23基設置)



新キャラクターも登場! 「そらべあぬりえ」販売中

そらべあグッズに塗り絵が仲間入り。そらべあのストーリーをベースに、デザイナーの Shinzi Katoh 氏が新たに書き下ろした作品です。これまでの作品にはなかったキャラクターも登場します。この塗り絵を通して、地球温暖化のことについて子どもたちと語り合いませんか。商品の売り上げの一部は「そらべあ基金」に寄付されます。



価格：350円
(10冊以上の場合210円)
発売元：Iworkpro
お問い合わせ：エコロジーオンライン
<http://www.eco-online.org/>
tiny-light-shop/

震災復興支援金付き 「そらべあグリーン電力証書」で みどりの復興支援を!

100kWh のグリーン電力証書に1,000円分の震災復興支援金がセットになった「そらべあグリーン電力証書」が登場しました。ご購入いただくことで、被災地を支援するとともに、太陽光発電や風力発電などの国内の自然エネルギー施設の運営や拡大に貢献します。100kWhという小口で購入できる気軽さとコンパクトなはがきサイズで、プレゼントなどにもピッタリです。復興支援金は、本号でご紹介した被災地での復興支援活動に役立てられます。



- ・証書実績電力量：100kWh (一般家庭における約10日分の使用電力量に相当)
- ・発電設備：肥前南風力発電所 (佐賀県唐津市)
- ・証書の大きさ：はがきサイズ (100.0mm×148.0mm)
- ・販売価格：1枚あたり3,000円 (税込)

お問い合わせ：エコロジーオンライン
<http://www.eco-online.org/greenenergy/>

✉ お便り募集

今回のそらべあ便りはいかがでしたか。よろしければご感想や、励ましのお手紙、写真などをお寄せください。いただきましたお便りは、ペンネームでご紹介させていただくことができます。氏名(ふりがな、ペンネーム)、住所、メールアドレスを明記の上、Eメール、または郵便でご応募ください(写真にはタイトルを明記してください)。



メール：info@solarbear.jp
郵便：〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-9-7 岡本ビル3F
そらべあ基金事務局「お便り」係

そらべあ基金 事務局の つぶやき

こんにちは、そらべあ基金事務局の沼田です。今回から「そらべあ便り」の紙面を大幅リニューアルし、記事をより見やすく、わかりやすい紙面としました。今回は被災地支援を特集。被災地では、大人たちががれきの撤去作業などで日中は不在にしており、親は子どもたちの遊び相手になってあげられません。ポータブルゲーム機(PSPやDSなど)の充電などに子どもたちがソーラーパワートラックに集まることで、そこはまるで昔の駄菓子屋さんのような、コミュニケーションが取れる場として、価値ある場所になりました。このように私たちの支援活動は、心に傷を負った幼い子どもたちに笑顔を取り戻すきっかけとなりました。さらには、子どもたちの元気な顔を見ることによって、私たち大人たちも元気になるとい、好循環が生まれました。



©Shinzi Katoh

そらべあサポーターズクラブ

そらべあ基金の活動は、「そらべあサポーターズクラブ」会員のみなさまのご支援により支えられています。

- プレミアムサポーター：ソニー損害保険(株)、ソニーマーケティング(株)
- オフィシャルサポーター：ソニー(株)、シチズン時計(株)
- サポーター：(株)ホンダソルテック、(株)ほんやら堂、(株)毎日新聞社
- 応援団：4社
- 個人・ファミリーサポーター：83名 (2011年6月30日現在)

そらべあ便り vol. 10

2011年7月発行
編集：加藤聡
デザイン：小池隆夫

NPO 法人そらべあ基金
東京都千代田区神田淡路町1-9-7
岡本ビル3F
TEL：03-3251-5454
FAX：03-5256-7344
<http://www.solarbear.jp>

そらべあ便り

Sorabear Newsletter | Vol.10 ✉



がんばれ
ニッポン!
震災復興
応援号

www.solarbear.jp

DVD 環境教育教材『そらとべあとみんなの地球』が完成しました！

今年2月にスタートしたそらべあ基金の新プロジェクト「そらべあキッズ応援隊」。企業と市民の協力によって、子どもたちが楽しみながら学べるDVD環境教育教材を作成し、全国の保育園・幼稚園・小学校に寄贈する環境教育プロジェクトです。先日、ついにそのDVDが完成しました。



DVD教材は、地球温暖化の影響で北極の氷がとけ、母親とはぐれてしまったホッキョクグマの兄弟「そらとべあ」の物語を通し、地球温暖化の問題点や自然エネルギーへの理解を深め、子どもたちが家庭で取り組めるエコアクションを紹介していく内容。全4章、約20分のDVDには、園児向けと小学生向けの2バージョンが収録されており、年齢とレベルに合わせた学習ができます。

制作されたDVDは約3500枚。全国の小学校のほか、幼稚園・保育園約300園が参加する「そらとべあスマイルネットワーク」会員、そらとべあキッズ応援隊のみなさまに届けられます。

東日本大震災以降、省エネや自然エネルギーへの関心は高まっています。DVDを見た子どもたちが、この地球の未来を考え、具体的な行動に移してくれることを願います。

この夏は「節電所」を建てよう！



間もなく夏本番。記録的に早い梅雨入りだったこともあり、例年であれば1日も早い夏の到来を期待したいところですが、今年は少し事情が違います。政府は今夏、東京・東北電力管内の企業と一般家庭に対して一律15%の節電を呼びかけました。福島原発の事故の影響により、暑さのなかで節電を迫られるかもしれない企業や家庭では、夏が来ることに戦々恐々としているかもしれません。

企業や家庭が照明をLED電球に交換したり、これまでムダ遣いしていた電気を減らすことは、他で使える電力を増やすという意味でも、発電するのと同じ効果があります。こうした考え方は「ネガワット」「節電所」などと呼ばれ、欧米では導入が進んでいる省エネ策の一つです。ちなみにネガワットとは、文字どおり電力の単位「ワット」の「ネガ」タイプ、つまりマイナスの電力、使われなかった電力を意味します。みんなの少しずつの節電努力の積み重ねで、ドラゴンボールの“元気玉”のように発電所を作り出すイメージでしょうか。

1989年、米国・カリフォルニア州のサクラメント市では住民投票が行われ、トラブルの多かったサクラメント電力公社（SMUD、スマッド）のラン

チョ・セコ原子力発電所の廃炉が決定しました。原発がなくなることで電力需要を確保できなくなった電力公社はどうしたか？ 新たな発電所は作らずに、需要側のネガワットへの投資を始めます。省エネ型のエアコンや冷蔵庫、LED電球への買い替えや、住宅の断熱工事のための低利融資や助成の推進によって、同市の電力消費は半分近くまで減ったといわれています。

原発の廃炉というシナリオを経験したSMUDの取り組みは、日本でも大いに参考にすべきでしょう。暑いなかガマンをしなくても、日よけ効果のあるグリーンカーテンを育てたり、最も電力を使う13時～15時の時間だけエアコンを切って扇風機で過ごすことで、消費電力を大きく減らすことが可能です。日本には世界一の省エネ技術があります。世界中から賞賛された助け合いの精神もあります。「ヤシマ作戦※1」と名付けることで、節電を楽しもうとするアイデアも持っています。ぜひともいろいろなやり方で、各々の節電所を作ってみてください。

※1 アニメ『新世紀エヴァンゲリオン』の劇中で、敵を倒すために日本中から電力を集めた作戦名を、今年3月の節電キャンペーンになぞらえたもの。多くの電気を使う炊飯を午後6時前に済ませるピークシフトへの協力などがツイッター上で呼びかけられた。

東日本大震災復興支援活動 ソーラーパワートラックを被災地に!

3月11日に発生した東日本大震災の被災地支援として、
そらべあ基金では「ソーラーパワートラックを被災地に!」プロジェクトを実施。
第1弾(3月24日~30日)、第2弾(4月15日~19日)、
第3弾(4月28日~30日)と、宮城県で支援活動を行いました。



第1弾

日程：2011年3月24日(木)~30日(水)

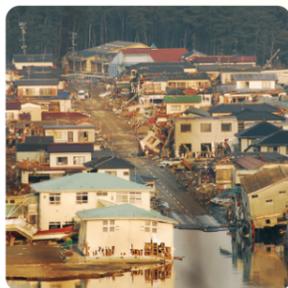
支援エリア：石巻市渡波地区~南三陸町志津川地区

SOLAR POWER TRUCK

3月24日未明、目的地である宮城県石巻市に向けてソーラーパワートラックが出発。震災発生からまだ2週間弱という時期にもかかわらず、東北自動車道や三陸自動車道は予想以上に回復していました。しかし市内に入り、海側の避難所に近づくにつれ、道路の復旧は進んでおらず、津波被害の爪あとを色濃く残していました。

訪れた支援先は、震災直後から電気が復旧していなかった洞源院、荻浜中学校、志津川小学校、旭ヶ丘団地の4ヵ所。ソーラーパワートラックが発電した電気は、携帯電話の充電からアニメの上映、さらには脱水機への電源供給などに活用され、いずれの避難所でも非常に喜ばれました。

「ありがとう」と声を掛けてくださった避難所のみなさん、自衛隊の方々の活躍、笑顔で卒業式を迎えた志津川小学校の6年生の姿に、支援に行った私たちの方が元気をいただいた気がします。7日間の活動を終えた帰り道。すれ違う車のステッカーは「災害緊急車両」から「災害復興車両」へと変わっていました。震災発生から20日が経ち、緊急に物資を必要としたり、行方不明者を救出したりできる時期ではなくなってきたということかもしれません。同時に、これからが本当の復興のスタートだということを中心に留め、岐路についたのです。



石巻市街の様子。手前側は津波の影響で道路が冠水しています



ソーラーパワートラックから電力供給中の洗濯機。まだまだ水が冷たい被災地では、脱水機能が大活躍



約2週間ぶりに見るテレビに子どもたちは夢中



ソーラーパワートラックとは?

4tトラックの荷台やウイング部に20wの太陽光発電パネルを250枚搭載し、5kwの発電が可能な電源車システム。一般家庭2軒分の蓄電池を搭載しており、夜間や雨天、災害時にも電気を供給することができる。



◎ 仙台市

◎ 多賀城市

◎ 塩竈市



ソーラーパワートラックの前に岡田元監督と記念撮影!



ベガルタ仙台の勝利に子どもたちは大喜び



ハーフタイムにはテレビの生中継もありました

◎ 気仙沼市



ソーラーパワートラックは子どもたちが集うオアシスに



料理のプロによる炊き出しは、いつも大行列!



パフォーマーの手から魔法のように生み出されるバルーンアート

第2弾

日程：2011年4月15日(金)~19日(火)

支援エリア：南三陸町志津川地区

SOLAR POWER TRUCK

被災地支援第2弾の訪問先は南三陸町志津川の旭ヶ丘団地と大森地区。旭ヶ丘団地は第1弾の最後に訪れた場所です。この辺りの地域は高台にあり、津波の直接的な被害はほとんど受けていません。当然、多くの方が自宅での避難を続けているのですが、避難所としては指定されていないために、物資は届かず、電気の復旧も遅れていたのです。到着するなり大勢の人たちが、携帯電話や電気シェーバー、電動アシスト自転車などの充電を求めて集まってきました。

電力支援と同時に、今回の活動の中心となるのが心のケアです。子どもたちに楽しんでもらえるようにと、ソーラーパワートラックにはゲームやテレビを設置。また、チョコレボ実行委員会から支給されたガーナチョコレートの配布も行いました。子どもたちが笑顔でぎわう様子は、まるで昔の駄菓子屋さんのよう!さらには今回ご協力いただいた、料理研究家の五十嵐豪さん、新宿イカセンターさんたちによる料理の炊き出しと、被災地に笑顔を届けている「リスマイルプロジェクト」のパフォーマーさんによるバルーンアート、ダンス、弾き語りライブには、たくさんの方から感謝の言葉をいただきました。こうして2回目となる支援活動では、電力や物資の支援以外にも、被災された方々のお腹と心を満たすことができました。

第3弾

日程：2011年4月28日(木)~30日(土)

支援エリア：宮城県多賀城市山王地区公民館・体育館

SOLAR POWER TRUCK

4月29日は、震災の影響で延期されていたベガルタ仙台と東北楽天イーグルスのホーム開幕戦が同時に開催され、東北スポーツ界の復興に向けた記念すべき日でした。そらべあ基金ではソニー仙台FCさんなど協力のもと、多賀城市の山王地区公民館避難所で「ベガルタ仙台 vs 浦和レッズ」のパブリックビューイングを実施しました。

プロジェクターは、ソニーが昨年のW杯南アフリカ大会で、テレビでサッカー観戦ができない人々のため、ガーナとカメルーンでパブリックビューイングを行った時のものを使用。今回のプロジェクトにはその時のスタッフも参加しており、あの時の感動を再び子どもたちに味わってほしいということで、思わずセッティングにも力が入ります。

そんななかサプライズゲストが!塩竈市と亘理町でサッカー教室を行っていた元サッカー日本代表監督の岡田武史さんが、パブリックビューイング会場を訪れてくれたのです。私たちも子どもたちに混じって、思わずサインと写真をおねだりしてしまいました。

さて注目の試合ですが、前半40分に仙台のリャン・ヨンギ選手が上げたクロスボールを太田吉彰選手が頭で合わせ、先制。この1点を守りきったベガルタ仙台が、地元開幕戦を勝利で飾り、パブリックビューイングイベントは大成で幕を閉じたのでした。

そらべあ基金では、今後もさまざまな形で、被災地の方々の復興支援のお手伝いを行っていきます。長期的な活動を行うためにも、ぜひとも寄付へのご協力をお願い申し上げます。詳しくは、そらべあ基金ホームページ (<http://www.solarbear.jp/fund/support.html>) まで。